

第6学年 道徳科「自分の心に誠実に 『のりづけされた詩』」

授業者 山本 健太

<p>本時までの学び</p>	<p>子供たちは教材『のりづけされた詩』を事前に読み、道徳ノートに、教材を読んだ「感想」と、みんなで考えたい「自分の問い」を書いていました。</p>
<p>〈導入〉 1 目当てを設定する。</p>	<p>教材の範読後、事前の質問紙で聞き取った、正直に言えたり、言えなかったりした経験をイラストと共に示し、教材の場面と実生活の場面とをつないでいきました。そして、右に示している事前読み段階での子供たちの問いから、誠実さにつながる問いを共通理解しながら、目当てを設定していきました。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>主人公の和枝さんと自分を重ねて考えたら、誠実について考えを深められそうだ。</p> </div>
<p>目当て：誠実に生きるとはということだろう</p>	
<p>〈展開〉 2 正直に言い出せない時の和枝の気持ちを考える。 3 和枝が誠実に行動した時の気持ちについて話し合う。</p>	<p>まず、主人公が学級文集に載せる詩を思いつかずに不安になり、人の詩を黙って使用してしまった時の気持ちや、そのことを言い出せずに悩んでいた時の気持ちについて自分の経験を想起しながら考えていきました。</p> <div style="border: 1px solid orange; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>期待されている分、正直に言ったらがっかりされると思うよ。</p> </div> <p>次に、誠実に行動するためには、どんな気持ちが必要かを問うことで、「罪を認める素直さ」や「友達からの信頼を守りたい」、「自分のプライドを守りたい」など、多様な考えが表出されました。その考えの中から、自分が一番必要だと思った気持ちを選択し、ペアで1枚の筆談シートに記述させることで、考えが同じかどうかを確かめさせました。お互いの選択の理由を筆談しながら質問し合う中で、正直・誠実について自分と異なる考えに触れて他者理解を深めていきました。</p> <div style="border: 1px solid orange; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>人の詩を使ってしまったら、自分のプライドや自信が消えてなくなってしまうと思うよ。どうして信頼を守る気持ちが大切だと思ったの。</p> </div> <div style="border: 1px solid orange; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>うそをついていることが、もしばれたら、自分の信頼が全て崩れてしまうと思うからだよ。</p> </div>
<p>〈終末〉 4 本時の学習を基に、自分の生き方について振り返る。</p>	<p>板書を基に本時を振り返り、「これまでの自分」「これからの自分」「心に残った友達の意見」「実行の難しさ」の4観点で自己の誠実な生き方について考えていきました。</p> <div style="border: 1px solid orange; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>後で罪悪感を感じないように、自分にうそをつかずに生きていきたい。でも、なかなか素直に言えない時があるんだよな…</p> </div>
<p>考察</p>	<p>友達との考えの違いから対話の意欲を高めることができ、その対話の中で他者理解が深まっていた。その他者理解を基に、自分の考えをもう一度見つめ直す時間を確保することで、さらに自分の生き方についての考えを深めることができる。</p>